

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2018年12月25日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団  
会長 喜多悦子 殿

## 2018年度地域啓発活動助成

### 活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

#### 記

活動課題

「いのちの物語をつむいで」～ことば・絵本・音楽の視座から～

活動団体名：NPO 法人 愛逢

活動者（助成申請者）名： 西山 裕規

## 活動報告書

### NPO 法人愛逢

(「いのちの物語をつむいで」～ことば・絵本・音楽の視座から～)

- I 活動の目的
- II 活動の内容・実施経過
- III 活動の成果
- IV 今後の課題
- V 活動の成果等の公表予定(学会、雑誌)

#### I.活動の目的

大目的

地域住民への死生観の醸成・啓発(死を考える事は生を考えることにつながる)

小目的

- ①患者、家族、支援者の立場と、ことば、絵本、音楽の視座から、看取りを支援、いのちを紡ぐ音楽・絵本・ことばのケア(ちから)について参加者も講師も学び合う場とする。
- ②今までに死について考えてこなかった、講座に参加しなかった多様な地域住民の参加を促す。
  - ・若い世代や学生なども、身近な形で地域の看取りのことを考えてもらう。
  - ・“アート”の視点で、新しい参加者の掘り起こしなど。

#### II. 活動の内容・実施経過

##### ①【第 13 回生と死を考える市民講座】

「いのちの物語をつむいで」～ことば・絵本・音楽の視座から～

日時:平成 30 年 11 月 18 日(日)13:30～16:00(開場 13 時)

会場:園田地区会館 2F ホール

プログラム

##### 1. 話題提供

I.ことばの立場から:藤田理代(\* ZINE 作家)

II.絵本の立場から:吉田恵子(絵)吉田利康(文)

(①NPO 法人アットホームホスピス、②いびら工房)

##### 2. 特別講演(60 分)(III.音楽の立場から)

「ラスト♪ソング」～人生の最期に聴く音楽～(生演奏あり)

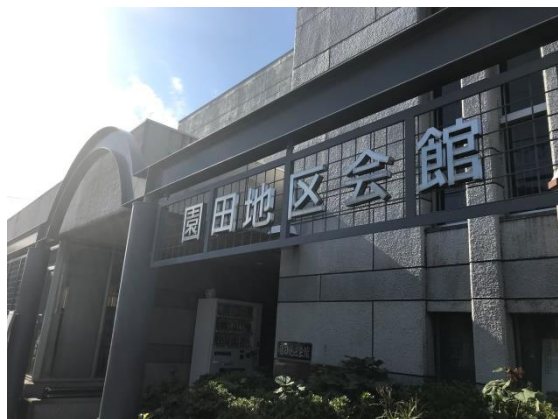
演者:佐藤由美子(ホスピス専門の音楽療法士)

##### 3. 鼎談(30 分)

「いのちの物語をつむいで」～ことば・絵本・音楽の視座から～

内容:「患者、家族、支援者」の立場と「ことば、絵本、音楽」の視点での活動をされているゲストを招き、生と死に関する講演や鼎談を通して、“自分や大切な人とのいのち物語が続いていく、いのちのバトンを受け継ぎながら今を生きていく”ことを参加者、講師、主催者のみなさんとともに考え、学んでいく。

【会場の様子】



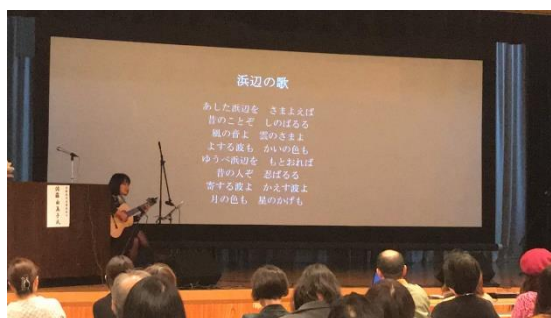
(会場となった地域の会館)



(市内外の方が参加)



(絵本のお話を交えながらの講演)



(会場の参加者の皆さんと一緒に歌も)



(和やかな雰囲気での座談)



(ミニ展示会も行いました)

## ②ことばと絵本の「いのちの物語展」

日時:平成 30 年 11 月 16,17 日(土,日)10:00~19:00

場所:みなくる☆そのだ コープさんとこ(コープ園田 2F)

内容:がん経験者でZINE 作家でもある藤田さんと、がんで伴侶を亡くした吉田さん(夫妻)の絵本の展示を通して、“生と死”、“いのち”を表現する作品に市民の方々が“触れる”機会を設け、参加者の看取りの経験や、生と死を考えたことがない参加者に考えるきっかけを提供する。

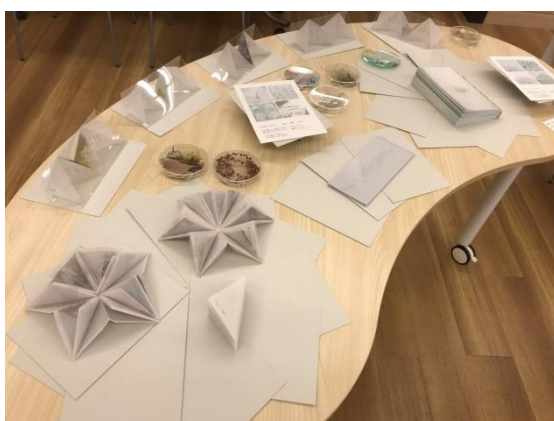
### 【会場の様子】



(地域の居場所がアートの空間に)



(絵本や原画の展示)



(様々な形で綴じられた“ことば”)



(参加者と作者の交流)



(佐藤さんの書籍・音楽紹介や生と死の関連本の展示)





### ③その他

実行委員会：5回実施(2018年：8/25,9/6,10/13,11/15,11/18)

(※8/25:展示の打ち合わせ、9/6,10/13:市民講座打ち合わせ、11/15:展示の打ち合わせ&準備、11/18:市民講座振り返り)

## Ⅲ. 活動の成果

### ①第13回生と死を考える市民講座

【成果】市内外を問わず、佐藤さんの講演や“アート”に関心のある参加者が多かった。“ことば・絵本・音楽”の項目でアンケートの質問項目を設けたが、項目別に異なる感想、共通する感想等もあり、参加者の一人ひとりが、自分自身の体験に基づいて“生と死”を考える機会になったことが伺えた。

#### 【当日参加者】

70名(一般:31名、専門職:14名、愛逢スタッフ11名)

#### 【職種・活動】

音楽療法士(5名)、介護福祉士、ヘルパー、助産師、医師、傾聴ボランティア、心理士など

#### 【住まい】

園田:29名、尼崎市内:9名

市外:26名(西宮:8名、神戸:7名、大阪:6名、京都2名、

他1名:大阪府能登郡、豊中、明石、富田林、川西、奈良、宝塚)

#### 【市民講座 アンケート】

アンケート合計37人

#### 1. 基本情報

1. 性別:男性:8名 女性:28名

2. 年齢: 20代:2名、30代:3名、40代:4名、50代:10名、60代:14名、70代:4名

3. 住まい

園田地区:9名 他の地区:4名(武庫・立花・小田・中央各1名)

市外:21名(西宮:3名、神戸:5名、大阪:4名、明石2名、他1名:伊丹、宝塚、川西、大阪豊能、富田林、京都)

4. 職種・活動(種類のみ)

無職、ヘルパー、音楽療法士、自営業、助産師、保健師、ケアマネ、社会福祉士、精神保健福祉士、主婦、物流・流通加工、市民オンブズマン尼崎、福祉施設職員、在宅介護事業、高齢者介護など

5. いのちの物語展に参加しましたか?(16, 17日分)

はい:5名、いいえ:22名

6. 今回の市民講座は、どこで知りましたか?(該当する所に○、複数回答可)

チラシ:7名 市報:2名 新聞:5名

インターネット:15名(HP:4名、Facebook:9名、他:twitter)

関係者からの紹介:13名(愛逢:5名、ゲスト:5名) その他:1名(佐藤さんメルマガ)

## II. 質問

※基本原文まま(判読が難しい場合などに※のマークをつけて説明しています。)

① 本日の市民講座のテーマや内容はいかがでしたか。

1. とても良かった:29名 2. よかった:6名

(以下、0名ずつ 3. どちらでもない 4. やや良くなかった 5. 良くなかった)

※その理由

7. 今まで、知らなかった音楽療法、ことばの力を教えてもらった。

8. 芸術を通して、死を考えることができた。暗くなかった。

14. 音や絵や詩を交えた講演は聴いて見ていて楽しく学べました。

18. 悲しみに〇〇(※判読不能)するのではなく、メルヘンチック、ファンタジックを寄せ集めながら

主点なるものを届ける訴求力に感銘しました。

19. 自分をいやすのは自分という言葉

20. 2人の話の内容が聴きやすく分かりやすかった。お二人とも！！

21. 元気なうちに自分の生き方をはっきりさせておくことが大切であること。

失って得たもの、それが新しい生き方として生まれる他の人とつながり共感の広がる。

23. 生と死を考える良い機会となりました。

24. 死と向き合い、その経験をもとに様々な活動されている方々の話を聞いて、本当に良かったです。

25. 様々な面から「生と死」を考えました。本当に「生きる」ということを考えました。

26. 今の自分が直面している問題

29. 死生学について多くのことを知り、沢山の発見がありました。

30. 深いテーマに出会いました。

31. あらためてクライアントさんと向き合う中で、音楽の力を信じそれを最大限活かして関わっていきたくて思いました。目の前で、生で音楽を聞いたり、歌ったりして共有すること、それは瞬時にして人の心に届き動かすことができるものだと実感しました。

MT(※ミュージックセラピーの略)の現場で使う楽器、色々ありますがギターっていいですね。

32. 何があるかわからないまま来ましたが、全て良かったです。テーマが通っていました。

33. とてもわかり易い言葉での話だった。

34. ご自身の体験に基づいた所での活動がゆえに「思い」が深く、人の心に届く内容でした。

35. それぞれの演者の気持ちが通う心地よい時間でした。

37. 自分の故愛犬、猫の感謝の気持・思い出を絵本に思った。

死線を丸2年さまよった(※判読?)サバイバーであり、その時出合った音楽体験を生かすことにした。

②“ことば”“絵本”“音楽”を通じて感じたこと・考えたなどがあれば教えてください。

【ことば】

1. 自分の体験などを言葉にすること文章化することは、体験(気持ち)を整理する上で大切と思った。
2. 手のひらサイズの思い出箱の表現とてもステキだと思いました。
3. 日々感じたことを記憶として残すことの意義
4. 伝えるという大事さを感じました。
9. ことばの大切さは日頃から痛感している。
12. これまで自分なりに考えてきたことと、相通じるものがあると感ずます。
14. ことばは本当に使い方が難しいです。
23. 自らの体験を語ることで、人を支える生き方に感動します。
24. 作品として、ことばを残すだけでなく、  
作る過程で多くの人との思いをすくいあげることができ、素敵な活動だと感じました。
25. 「オセロのようにひっくりかえる」「自分の人生は自分で終いたい」  
(お話の中ですごいと思ったことばです。)
32. 様々なアプローチに驚きました。
33. ことばを残していくこといいなど“あの人にしてみたい”と一杯思いました。
34. 「ことば」を通じて人と人をつなぐ。自分の思いを伝えることのすばらしさを感じました。
35. 生きている時、亡くなってからもことばを〇〇〇〇(※判別不能)思いました。

【絵本】

1. 次世代にいのちの大切さを伝えていくことの重要性を感じました。
3. こどもにいのちについて伝えることの意義
4. 目で見える事の大事さ
9. 次世代に伝えることは、とても大切。
12. 医療と生活者とのかいは、とてもよく分かります。そこらご自身が、  
出すぎる杭になるというところご自身の内側から出る言葉は人を動かしますね。  
子どもが子どもに読み聞かせ、いいですね。強く同意です。
13. 色々な絵本を見たいと思いました。
21. 市民生活とのがん患者との乖離、家族愛は成果物！！住み慣れた環境が患者を楽にする。
23. 思いやり深いお二人の会話に心いやされました。
24. 幼稚園児の反応の話がとても印象深いです。子どもに死に関する話はタブー視されがちですが、子どもは受けとめる素地があり、伝える側の大人の対応が求められていると感じました。
25. 「21世紀の科学文明でもマジックは残っている」(※お話の中ですごいと思ったところです。)
32. 伝えたいことがあり、伝えるーいいなと思いました。
33. 死にゆく人の絵本があることを考えたことがなかった。読んでないでしまいました。
34. 「絵本」というわかりやすい、ツールで「命」を伝える情熱に感動しました。
35. 子供から大人まで、言葉、思いへの人としての絵の可能性を感じました。

【音楽】

1. 音楽を通して人生を回想することに深く考えさせられました。
  2. 「音楽は人と人をつなぐ」このことばを信じてつながり方を考えていきたいと思う。
  3. 音楽の持つ力の偉大さ。
  4. 音楽はさまざまな脳に働きかけるその通りだと思います。
  9. 今後も音楽療法が利用されることを希望する。
  12. 期せずして、お2人から、ことば、おんがくも「ツール」としてとききました。相手の存在を尊重すること、誰でもないあなたの Life history を大切にすることだと思います。
  14. より興味を持ちました。
  20. 多分同上(所用で帰ってしまい聴けませんでした。残念)
  23. 言葉がないほど、素晴らしかったです！音楽ってすごい！
  24. セッション中の映像で、患者さんの表情が大きく変わっていく様子にとっても驚きました。音楽が人の心を聞かせてくれる。その力強さを感じることができました。同様に、音楽だけでは効果は薄く、人と人が接することがとても大切だと感じました。
  25. なぜ音楽なのだろうか。改めて考えました。
  28. 声量があって、歌がお上手で話術も良かったです。
  32. 具体的で、しかもわかりやすい説明でした。とてもやさしい歌でした。「音楽の力」伝わりました。
  33. 音楽ってすごいなと真に思いました。ありがとうございます。
  34. やはり、音楽は人の感性に訴えかけ、情動を持っているものだと感じました。いかに寄り添うのかの大切さ、深さ、難しさを感じました。「人生の意味を自分で見つける」そういう自分の人生を送りたいと思いました。
  35. 自分自身を優しく包むことができるのが音楽の力かと思った。
- 【共通】※アンケート項目としてはことば、絵本、音楽のみだったが、記入者が共通するものとして記入。
6. エンパワーメント、ZINE、佐藤さんの声(※ことば・絵本・音楽同様)
  8. いろんな伝え方があるなあ。心は写真、絵、音楽いろんな方法で伝えられる(※ことば・絵本、音楽同様)
  10. みなさんのお話、心にひびきました。来て良かった！(※ことば・絵本・音楽同様)
  20. 私がいつか自己出版する時、この方に相談してみたい。(※ことば・絵本同様)
  28. 生きていることに感謝したいと思います。(※ことば・絵本同様)
  29. それぞれ分野は異なっても共通しているところは同じなのだなんて思ってとても興味深く聞かせて頂きました。(※ことば・絵本・音楽同様)
  30. 私は若かった頃、難聴者の(ことば・きこえ)の保障、要約筆記のV(※ボランティアの略)を経験させていただいた時、人間の最後まで残る感覚は(母の胎内にいたときから、死のまぎわまで)聴覚である。何を伝えたいのか、人と人のコミュニケーションの大切さをあらためて考えさせられました。(※ことば・絵本・音楽同様)
  37. 上述の通り(※①その理由の記述に関して、絵本・音楽同様)



③あなたはいのち(人生)の物語について考えたことはありますか？

はい:30名、いいえ:4名

※どのようなことを考えましたか？(いいえの場合も、今回の講座を通じて考えたことがあれば教えてください。)

【はい】

1. 死とは終わりではないこと。その人の人生を語ることで意味をなすこととと思いました。
2. ナラティブ 語り的重要性を与えるあためて感じた。
4. 生と死むずかしいですね！  
でも、生と死を深く考える事は必要なく、川の流れのよう自然のままでもいいと思いました！
6. 死ぬために生きるって？
7. The Long Goodbye — の前に何ができるかみつきたいと思います。
8. 自分らしく最期を迎えたい。大切な人の場合も。
9. 自分史を書く。短歌で表現する
10. 今、義父ががんで緩和ケアを受けているので何が音楽で心をいやしてあげたいと思った。  
私のは楽器ができないけれど、長女はピアノやギター、次女はピアノができるので、少しでも義父のために何かできることがあると思うので、家族に提案してみたい。
12. 自分の生の有限性が、実感となった時、来し方と行く末をどう捉えなおし、言葉にし、それを周囲が、どう受けとめていくかが、大切と思います。Narratibe を専門職として支えるためには、自身の死生観を常に向き合うこと深めることが必要と考えております。自分の死、主観は完成するものではないので、それをもって支援する方と共にあるのが、自分の職業的なスタンスと思っています。
14. 何を感じて息を引き取るのか
16. 悩んだときや送ったときに、どのような思いで自分の道を選んできたか。  
自分は人と関わる中で、何をなしえたいと思っているか。
18. 今、この瞬間を大切に生きたい。夫、子ども、かかわっている周囲の方達とともに。
21. 人はいつか必ず死ぬ。今は生かされている。
25. わたしはどう生きて、どのようにとじていこうか。  
できたら、「あーたのしかった」で終わるように生きていきたい。
29. 数年前、大好きだった祖母を在宅で看取りました。  
初めて人の死の瞬間に立ち会い、色々なことを思い出しました。
30. 人としての尊厳の回復を願い求めたいです。
32. 自分の人生を意味づけるもの＝意味あるものにしてくれる
34. 現在、リアルタイムで母の病と老いへの日々の寄り添いをやっており、何か悔いなく自分にできる事は？と考える日々です。やってもやっても何が正解なのか分からない中、本人との対話がとても大切だと感じさせてもらいました。
35. ことばを残すということについて。
36. 大切なことを感じさせられました。ありがとうございました。

37. ①死線をさまよった(判読?)時、  
「ここで死んだら(他人の家)、めいわくをかける。せめて、自宅に戻ったら死ぬこと許そう(自分に)」  
②サバイバーとして、後に続く人の参考になるよう、小さな細いけもの道を残そう。  
残りの人生をかけて。

【いいえ】

3. 自分のこととしてはあえて考えたくないと思っていた。自分とはとるに足りないものと思うから。  
でも違うかもしれない。

④ 講座の感想、お気づきの点、今後の講演会へのご希望などがあればお教えてください。

1. 家族のケアも必要と再認識した講演会でした。
2. たくさんの方々に聴いてほしいと思う講演だった。生と死は誰もが向き合わなければならないテーマ。ずっと考えていきたいと思う。
3. 参加できてよかったです。ありがとうございました。
9. 毎日の生活を反省するよい機会となった。
16. 本を綴じることや、絵本をつくること、音楽を聴き歌うことを通して、ご本人・ご家族の人生を引き出し、見つめ直すきっかけづくりが作り出されており、それが何よりのケアになっているのだと感じました。
17. すばらしい講座、どうも有難うございました。
23. 素晴らしい時間を有難うございました！
24. とても貴重な講座をありがとうございました。アートの視点から見るといことですが、音楽療法以外の視座は新鮮でもあり、重なり考えることもあり、本当に自分の一部になったと思います。
28. 継続的に開催して下さい。
29. エンパワーメント、クライアントさんや患者さんが求めていることそれにただ寄りそってお手伝いすること、そんなお話がとても共感できました。私はちょうど昨日から高齢者音楽療法の研修を初めたところです。同時に素晴らしい学びの場ともなりました。ありがとうございました。
32. とても良い企画でした。第14回も来たいと思いました。
34. 初めて参加させて頂きました。自分自身も家族や周りの方の「命」と向き合う経験が複数あり、おのずと「生きる」ことを考え、「人の命との向き合い」「寄り添い」「自分らしい生き方」を考え、さぐってきたが、そういう事を感じ、実際に行動し続けられている人が多くいる事に勇気をいただきました。
35. 「生と死を考える」というテーマにふさわしい内容でした。ありがとうございました。
37. 心理セラピストという背景を持つ音楽療法士のため、日本の大多数の養成講座で、「セラピスト」としての根本的な教育がなされていないことを感じてきた、佐藤さんのクライアントに対する向き合い方は、セラピストそのものだと感じた。

②ことばと絵本の「いのちの物語展」

【成果】会場周辺の東園田の住民の来場者の割合が多かった。また、展示を目的に来ていない、コープの買い物客の来場も少しあり、生と死などの催しに関心のない層への啓発につながった。参加者の東園田の住民の一人が愛逢の家に近く、関心を寄せてくれ、愛逢の家に必要なものを届けてくれるなど、イベント外での交流にもつながった。

【来場者】

67名（1日目：34名、2日目：33名）

【住まい】

園田：42名、尼崎市内：4名

市外：26名（西宮：5名、大阪：4名、豊中：2名、他1名：神戸、川西、宝塚、芦屋、箕面、吹田、京都）

※外国5名（コープの査察で来られていたため、インド、韓国、ベトナム、マレーシアの方も見学）

アンケート合計 27人

I. 基本情報

1. 性別：男性：6名 女性：21名
2. 年齢：30代：4名、40代：5名、50代：6名、60代：4名、70代：5名、80代：2名
3. 住まい  
園田地区：14名 他の地区：1名（立花）  
市外：9名（西宮：2名、他1名：芦屋、宝塚、川西、豊中、吹田、京都）
4. 職種・活動（種類のみ）  
無職、グランドゴルフ・園芸、手作り手芸ボランティア、理学療法士、教育、  
コープこうべ組合員、障害者支援、介護職、看護師、

II. 質問

① 本日の展示や内容はいかがでしたか。

1. とても良かった：20名 2. よかった：5名 3. どちらでもない  
(以下、0名ずつ 4. やや良くなかった 5. 良くなかった)

※その理由

5. 「いのち」の尊さをあらためて感じました。
6. 強い心です。活動頑張って下さい。
7. 少々むづかしい。
8. 余計な理屈や説明は不必要だから。
9. 自分の経験や体験や思いなどが本というカタチになるのはステキだなと感じました。  
自分も作ってみたいです。
10. 命の尊さ、家族のきずな、とても重く感じました。
11. 現代では忘れがちな心をなごみました。
14. 10年以上ぶりに会えた事に感謝。

15. 命の大切を思い、美しい絵画を見て感動しました。
16. 藤田理代さんの人生に触れ、お話を聴かせていただきました。  
人と、いのちに向き合う姿に心打たれました。
17. なごむ
18. 絵本を見ているだけでこころがあたたまりました。
19. 患者さんの心に触れることができる内容で、ジーンとしました。
20. 本をゆっくりよめた。
22. 知らない世界感でした。
24. 絵本のやわらかい絵と色で、重いテーマが手にとりやすく、読みやすく  
まだ思い出の物が絵本というカタチで残されるのはいいですね。
25. 本屋では出会えない絵本に出会えた。
26. 絵本の絵にとてもいやされました。内容もわかりやすく、子どもにも読ませたいと思いました。
27. 身近に、病いや死について触れる機会をいただけたので。

②“ことば”と“絵本”の展示を通じて感じたこと・考えたなどがあれば教えてください。

【ことば】

9. いろいろな表現があって、人それぞれのもので、  
ことばを通してその人が見えるというのはとても興味深いです。
10. 言葉次第で人は変る。優しい言葉。  
思い出の豆本、素敵でした。いつもカバンの中に入れておきたいですネ。
23. 心にしみ入る。
24. ことばはシンプルでそのまま感じたことを。相手がいることを思うことを。

【絵本】

1. 小さな子ども達への読み聞かせをしていて、良かったです。
5. 「いびらのすむ家」の子どもが発するひと言ひと言。母を想う心にぐっときました。  
やさしい色づかいやタッチ、心がなごみました。
8. 理屈なく学ばれるところが素晴らしい。
9. 必ずしも「キレイな絵」でなくても温かさぬくもりは伝わるのかなと改めて考えました。
15. この絵本(「がんって、なに?」)を世の中の多くの人が読まれたらよいと思いました。
20. 絵といっしょになると、やさしく頭に入ってくる。
25. たくさんの方に読んでほしい。

【共通】※アンケート項目としてはことば、絵本のみだったが、記入者が共通するものとして記入。

6. 作品の中を読むと、涙が出てきます。辛い時期をのりこえ今の活動があることが強いですね。
16. 生きることは、病や愛する人の市や、様々な危機のなかにもあり、そこから生まれてきたものを抱きかかえて歩むことでもあり、最後は人間の思いを超えた永遠な大いなるものにゆだねていくことにあるように感じます。

- 17. 心がほっこりする
- 18. むずかしい病気等を伝えるには良い方法だと思いました。
- 21. 視覚から静かに「生」を感じることができました。
- 27. かたちにして誰かが誰かに伝える(伝わる)ことの大切さを感じました。

③あなたはいのち(人生)の物語について考えたことはありますか？

はい:22名、いいえ:3名

※どのようなことを考えましたか？(いいえの場合も、今回の講座を通じて考えたことがあれば教えてください。)

【はい】

- 5. 子供達へのメッセージ。親がいなくなっても自分らしく生きてもらいたい。
- 8. まずは自分が満足する。そうすれば幸せなれる！！
- 9. 病気になる前の自分と病気になったあとの自分。  
失ったものを教えるよりも得たものを大切に抱えて生きていこうと思います。
- 10. 人生振り返り、自分自身の思い出を本にしたいです。
- 11. 残りの日々を大切にしたいと思います。
- 13. あと、何年生きるだろう。おだやかに人の手をわずらわずに消えて生きたいと。
- 15. 後期高齢者の私は、毎日のように考えます。小さなことでも、人に喜んでもらえる行いをしたいです・・・。
- 19. 自分の仕事を振り返り、がんばらなくてはと思った。  
“がんばりたくない人にがんばれとは言わないけれど、あなたががんばることで喜ぶ人は多いと思う”⇒がんばれと言わない時代になってきているけれど、がんばらなくていいよ。だけでは何か足りない気がしていたから。書くことはとても難しいけれど、命は大切なんだということ。
- 20. 夫の父が亡くなったとき。
- 24. いのちに、境界はないのかなと、死もいきるうちのひとつであって、特別なものなのかな...と。
- 25. 自分自身のいのちのしまい方などを年々考えるようになりました。
- 26. 母が亡くなった時に、「死」についてよく考えるようになりましたが、  
これから「自分がどう生きたいか、家族と話せたら良いな」と思いました。
- 27. どのように自分が生きたいか。自問自答をよくしています。

【いいえ】

- 18. 終活を考える時期になっているので、自分史のようなものを少しづつ作ってゆきたいと思いません。
- 22. 他人事の様な気もするし、いやいや身近な事なのだが

## IV. 今後の課題

### ①第13回生と死を考える市民講座

市報の掲載や会場地域である東園田を中心に広報(ポスティング)したが、地域住民の方や若い世代の参加者が少ない。参加した方から、アンケート等での評価は高かったので、後援等で地域の諸団体(子育て含む)にも広報の段階からの協力をもとめ、周知していきたい。また、アンケートから、地域住民の一人ひとりが、看取りの体験・経験を持っていることが分かり、年に1回の生と死を考える市民講座以外に、身近な形で“生と死”、“いのち”に関することを参加者同士で、考え、学び、話し合える、地域向けの住民講座の必要性も感じた。

### ②ことばと絵本の「いのちの物語展」

地域のコミュニティスペースとして開催している「みなくる☆そのだ〜コープさんとこ」の場所を活用したが、「みなくる」では、初めてのアート展の開催ということで、どのようなレイアウトで行えばよいか、必要な物品など、準備の段階で試行錯誤の中での開催となった。アートの展示自体は、アンケートからも好評であることはうかがえたが、現時点では、法人単独では、定期的な開催は難しいと思われる。また、当初予定していた地域住民向けのワークショップは日程の調整が困難だったため、開催に至らなかった。

### ⑤全体

「ことば、絵本、音楽」の視点での3人のゲストを招き、展示も含めた“アート”の視点での開催は愛逢としては、初めての試みであった。展示などでは、親子での参加も見受けられたが、当初、目標としていた、多世代の若い世代の参加者の掘り起こしには参加者数としては、つながらなかったのは残念である。生と死を考える市民講座も13回を数え、ニュースや地域の中で、“生と死”“看取り”の言葉も当たり前のように、使われる時代になってきた。看取りを特別なものではなく、多世代が共有する看取りの文化として醸成していくためには、看取りの文化を“育む”視点での小規模での地域住民向けの講座等の開催が今後は求められていくと考える。

## V. 活動の成果等の公表予定(学会、雑誌)

特になし